

ロレアルが世界に発信、30ヵ国130万人の美容師が参加する社会貢献



美容師が伝える HIV/エイズ予防教育活動とは

ロレアルがグローバルに行っている HIV/エイズ予防教育活動「HAIRDRESSERS AGAINST AIDS」(以下、HAA)は、2011年に10周年を迎える。日本では、大川雅之・TAYA クリエイティブチーム チーフディレクター、高橋和義・ザック代表、新井唯夫・フェリー代表という、3人のトップヘアアーティストを HAA アンバサダーに抜擢。活動の一環として、3人は2010年12月1日の世界エイズデーに、同社本部のあるパリを訪問。アカデミーと現地ヘアサロン3店舗、そして HAA でパートナーシップを組むユネスコ本部を視察訪問した。

VISIT @ L'ORÉAL ACADEMY

人と親身に接する美容師だからできること
ハサミをリーフレットに代えて顧客に伝える社会貢献

HAA は、ユネスコ親善大使のレディー・オーウェン・ジョーンズ＝ロレアル グループ会長夫人が、2001年に、南アフリカを公式訪問し、エイズについて関心を持つようになったことが発端となっている。キャトリーヌ・ギルリー＝ロレアル インターナショナル PR HAA 担当は語る。「2011年は世界での活動として10周年を迎える重要な年で、記念のカレンダーを制作した。エイズが発見されてから30年経つが、いまだにワクチンが開発されず、感染者は増加の一途。しかし、もはやエイズは珍しい病気になってしまい、人々は忘れかけている。12月1日の世界エイズデーでしか語られないというのは憂慮すべき状況だ。カレンダーを毎日見ること、これまで3,300万人が HIV に感染し、今現在も広がっていることを忘れないでほしい。そして声を

出して語り合ってもらいたい。

同活動は、ロレアル製品を扱うヘアサロンで、美容師たちがエイズについての基本知識を記載したリーフレットを顧客に配る。それは、エイズ患者への差別をなくし、多くの人々にエイズという病気について正しく認識してもらうことを目的としている。リーフレットの配布自体はシンプルな行為だが、非常に効果的な方法といえる。それでは、なぜ美容師がこの活動の主役となり得るのだろうか。ギルリー-HAA 担当は「美容師は、多くの人々と精神的にもつながりを持つことのできる数少ない職業だ。エイズはデリケートな問題ではあるが、信頼を築いた上で、顧客に対して適切な言葉でエイズについて語りかけることができる」という。リーフレットとカレンダーにとどまらず、同社は、ジェレミー・グッドール監督を迎えてショートムービーも制作した。各場面では、エイズについての基本知識を得られるような様々なセンテンスが登場し、HIV 感染予防の知識とエイズ患者への差別をなくしていこうという重要なメッセージが込められている。

ギルリー-HAA 担当は、今回ロレアルアカデミーを訪れた3人と出会い、真摯な姿勢を受け「日本でも HAA

に賛同する美容師を増やし、シリアスかつエレガントに語り合ってもらいたい。ゆくゆくは他国にも働きかけて広めてほしい。そして、近い将来世界中の美容師がコラボする企画を行いたい」と語った。



(上)ロレアル本社にて。左から高橋代表、大川チーフディレクター、ギルリー-HAA 担当、新井代表 (下)ギルリー-HAA 担当が、なぜロレアルが HAA の活動に力を入れるのかを、数本のフィルムを交えて丁寧に説明。3人は言葉の1つ1つを聞き通すまいと真剣な表情を見せていた

STAFF COMMENT

HIVのことも正しく
エレガントに伝えたい

キャトリーヌ・ギルリー/ロレアル
インターナショナル PR HAA 担当
ロレアル本社でプロフェッショナル
ブロードキャスト本部のインターナショナル
チームでアーティストリレーション、
イベントコーディネーションなどを
経て、2009年から HAIRDRESSERS
AGAINST AIDS を統括担当する。
PR として世界での展開を戦略的に考
える



BEAUTY CALENDAR

毎月啓発! カレンダーのために
世界のセレブが大結集

HAA 活動の一環として、ジョン・ノレ＝ロレアル パートナーヘアスタイリストを迎えて、HAA のオリジナルカレンダーを制作した。ルー・ドワイヨン、ヴァネッサ・パラディ、ダイアン・クルーガーなど、映画やファッションの分野で注目を浴びる12人の美女たちが、この HAA の活動に賛同して無償で出演している。各月には「自分がエイズウイルスキャリアかどうかを知る唯一の方法は、HIV 抗体検査を受けること」「エイズウイルスキャリアの人に触れたり、一緒に暮らしたり働いたりしても全く危険はない」などのメッセージが添えられ、めくるたびにエイズに対する意識を呼び起こす効果を狙っている。同カレンダーは、ロレアル製品を扱うヘアサロンに配布されるという。



ARTIST COMMENT

このカレンダーで多くの
人々に賛同してもらいたい

ジョン・ノレ/ロレアル パートナーヘアスタイリスト
映画「アマリ」や「ハイレーツ・オブ・カリビアン」
などでヘアを担当。ピーター・リンダバーグとの
シュート経験をもつ。今回のカレンダーでは、
ヘアとカメラを担当した。より多くの人を動
員して語りかけていく必要があるとジョン・ノレ



UNESCO

ユネスコ本部で受けた
教育のプロたちによる講義

ロレアルがパートナーシップを組んでいるのが、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)である。その中で HIV 担当セクションは、教育局に含まれている。教育の有無が、エイズについての知識を得られるか否かに大きく関わってくるからだ。アンバサダー3人は、松浦晃一郎・前ユネスコ事務局長のドキュメンタリーフィルムを鑑賞し、ユネスコの活動を把握した上で、教育局の説明、そしてエイズ関連の活動についてのレクチャーを受けた。教育に力を入れるユネスコと、エイズの予防教育活動を推進するロレアルが教育を接点としてつながり、その協力関係がいかに重要であるか、理解を深めていた。



(上)ユネスコの大会議場 (下)アフリカのエイズの実情を辿るドキュメンタリー写真の展示会場で、ユネスコのラミア・ウィグワナダンからエイズプロジェクト担当者からレクチャーを受ける。担当者は、「日本の仕事の中で人と接する機会のある美容師だからこそ、新しいアイデアがあったらロレアルを通じてどんな提案してほしい」と3人にメッセージを送った

VISIT @ HAIR SALONS

パリのヘアサロンを訪れ HAA 活動
現地サロンの美容師とコラボレーション



1.ヘアサロンで顧客に配るリーフレット 2,3,17区「エンジェル・スタジオ」4.シャトレ地区の「ヘアスター」5.フォール・サントーレ街の「ヴォグ」を訪れ、3人のアンバサダーも顧客にリーフレットを配って現場での HAA 活動を体験した

世界エイズデーに訪れた現地のヘアサロン3店舗では、美容師が HAA オリジナルの T シャツを着用し、レッドリボンを手首に巻き、ちょっとしたイベントのよう。「楽しくアピールすることも重要」と行動をもって示しているかのようだった。シャトレ地区の「ヘアスター」のジェシカ・

マルシェティ＝スタイリストは「エイズ患者も私たちも同じ人間であることを考えるべき。差別をなくすためには、怖がらせないような言葉を選びながら前向きに語りかけることが大切」と説く。シリアスかつエレガントに活動を推進する、というロレアルの意向はしっかりと守られていた。

INTERVIEW

GRAND TAYA | 声を出して行動を起こし、
大きな力に変えたい

大川雅之/TAYA クリエイティブチーム チーフディレクター



美容師は、技術の向上はもちろんのこと、顧客を迎え入れる立場にあって、身だしなみとしての服装を整えることも重要だ。今回パリのサロンを訪れて、皆 HAA の T シャツを着てレッドリボンを手首に巻き、意図統一ができていて、帰結していることに驚いた。他国の活動や美容師の真摯な姿は、日本にいるだけでは見えてこないもの。とてもよい経験になった。世界でも本気で取り組んでいるということ、日本にいる皆に伝えたいと思った。そして今回、声を出して行動を起こすことがすべてにつながるということがわかった。それが最初小さなものでもあっても、最終的に大きなものになることが理解できた。美容師は、髪を切ることで人々を幸せにする職業だと思うが、エイズについての正しい情報を、声を出して伝えることでも、やがてそれが人々を幸せにできるのではないかと。

ZACC | 美容師は社会を変える力を
持つと再認識した

高橋和義/ザック代表



エイズという言葉が世に広まり始めた頃は、ただ怖いものでしかなかったが、「死なない病気」といわれて以来語られることが少なくなり、自分にとっても他人事になっていったと思う。しかし、エイズの知識がないため、感染者は増加するばかり。ただそれは努力次第で一気に感染者の増加を抑えることができるのではないかと、という意識が今回の視察を通じて生まれた。美容師はヘアデザインを作るだけでなく、社会への働きかけが可能なポジションにあり、行動によって社会を変える力を持っている、ということに日本のスタッフに伝えた。スペインの世界エイズデーでは、チャリティーで進行する人にレッドリボンのような赤のメッシュを髪に入れていたが、日本人の髪質ではエクステンションの方が合っているかもしれない、と HAA についてのアイデアが浮かんだ。

FEERIE | 新しいアイデアで
社会貢献を

新井唯夫/フェリー代表



アンバサダーとして選んでいただき、この活動に関わることができて嬉しく思っている。今回ユネスコを訪れて、自分の美容師人生とは違う社会貢献のあり方を知った。その大きさに驚き、改めてリスペクトした。美容師だからこそできる貢献があるはず、という思いも強くなった。私の場合、ステージとセミナーワークで年に2万5,000人の方々と接する機会があるので、少しでも多くの人にこの活動について伝えたい。今後、美容業界の人間として、よりこの活動に協力し、様々な影響力をもたらすような方法を模索したいと思う。そして日本独自の新しいアイデアを実現させたい。間違った知識が差別を助長するので、タブー視しないよう注意し広げていきたい。そのためには取り組み方はシリアスに、しかし明るく社会に溶け込ませることが重要なのではないかと。